特 集

被害者と加害者の心理的な関係

① 被害者を支配下におき、一種の奴隷化をする。

⇩

② 加害者以外との関係を一切絶つとことを強要する。孤立させ、加害者に服従することが必要だと思い込ませる。

⇩

③ 暴力や言葉で脅すなど、恐怖による支配をする。被害者は暴力がいつ起こるかわからない状態におかれ、何をしても抵抗できないという無力感を抱くようになる。

⇩

④ 被害者が逃げることを考えると、「おまえがいないと生きていけない」など情に訴える。被害者のなかに残る「何とかできるかもしれない」という最後の望みを利用する。被害者は恐怖と懐柔のなかで、心理的エネルギーを消耗していく。

⇩

⑤ 被害者は自分の生死が加害者にゆだねられているという状態が続くと、たまに優しくされた時“生かしてもらっていることの感謝”さえ感じるようになる。

⇩

⑥ さらに支配は続き、食事やトイレの許可さえも求めさせることで、被害者は自己という意識が侵食され、加害者の指示と支配なしでは生きることも不可能な状態におかれる。

⇩

⑦ 精神的な支配と屈従の最終段階として、被害者の思い出の品を破壊する。他者とのつながりの象徴を失うと、被害者は人間的な感情を失い、無感覚・無感動な状態に陥る。かろうじて残った感情を生かしておくために、本来憎いはずの加害者にしがみつき、唯一自分に残された人間関係にすがって生きようとする。

一旦このような関係に陥ってしまうと、自分ひとりではそれを自覚するのが非常に困難になります。周囲のサポートが必要となってくるでしょう。